

<今日の説教のポイント コリントの信徒への手紙 I 15章 35-58 節>
死者はどんな風に復活するのか。その問いの本当の問題は？

1 (35-49) 「体」に注目している。問題は、靈魂不滅とは違う思想。

私たちの復活についての興味深いパウロの説明です。この世界の中でも私たちの目には不思議に見える神様の業が起こっています（種の成長、蝶の変態、そして多様な創造物）。それなら、主イエスがその初穂である私たちの復活も(20)、「自然の命の体があるのですから、霊の体もあるわけです」(44)。パウロが「体」にこだわっているのは、体を持たない靈魂不滅を考える人々がいたからです(6:12-20)。

2 (50-53) 生きてその時を迎えた者は？ 神様の「神秘」に委ねる。

既に死んだ者でなく、「最後のラッパが鳴る時」(52)に生きている者はどうなるのか。この興味深い問いにパウロは、「神秘(ミステリオン)を告げます」(51)と言い、神様に委ねることを勧めています。委ねて信じるべきは、「一瞬のうちに、復活して、変えられる」(52)ということです。「朽ちるべきものが朽ちないものを着、この死ぬべきものが死なないものを必ず着る」(53)という表現が、既に死んだ者の復活とは違う点までパウロが考えていることを知らされ、神様が用意して下さっている復活の体に対する信頼の深さを覚えます。

3 (54-58) キリストの復活が人間の罪とその結果の死を打ち破った！

パウロはイザヤ書 25:8、ホセア書 13:14 を用いながら、旧約聖書の神様が、人間の罪の故に生じた死を御子イエス・キリストによって打ち破り、死に勝利して下さったのだと心から感謝しています(57)。よって、その後、最後に述べる内容の前につけられた「こういうわけですから」(58)は、とても重要な小さな一語です。パウロがこれまで長い 15 章全体で述べて来たこと、つまり、神様がイエス・キリストを復活させられたこと、そして私たちにも復活を用意して下さったことが確かだと信じているからこそ、ギリシア的な異教の風俗習慣が圧倒的な力を持つコリントのちにあって、次のように力強くキリストの福音を宣べ伝えることができたのです。「こういうわけですから、動かされないようにしっかり立ち、主の業に常に励みなさい。主に結ばれているならば自分たちの苦勞が決して無駄にならないことを、あなたがたは知っているはずです」。